

KOMATSU D61PX1-23

何ヘクタールもの土地を、
センチメートルの精度で
整地する。

「ICT×ブルドーザー」に、
驚いたのは現場だった。

「想像以上だったよ」。それが、現場監督の第一声だった。傍らでは、熟練のオペレーターが、よく目配りした顔で、うなずいている。山口県山陽小野田市。宇部空港から30分ほどクルマを走らせた場所に、その現場はあった。6haの広大な土地を整地してつくるメガソーラー建設予定地。日照時間が長く、条件のいいこの地域には、ソーラーパネルを敷きつめ太陽光発電をするメガソーラーが増えている、と教えてくれた。

二人の視線の先に、一台のコマツがいた。ICTブルドーザーD61PX1。見た目は、普通のブルドーザーと変わらない。しかし、この新しいコマツが現場の働き方を大きく変えようとしている。最大の特徴は、ICT技術を使い、世界で初めて掘削から仕上げの整地までのブレード操作を自動化したことにある。ブレードとは、土を押すブルドーザーの手にあたる部分のことだ。

ちょっと想像してほしい。あなたがこの現場で作業をしている姿を、まず、設計図を、通信で読み込ませる。どこを何cm掘削するのか。斜面の勾配は、何度にするのか。運転席に座ったあなたは、ブルドーザーを前後左右に動かすだけでいい。あとは常駐を使った位置情報システム(GPS・GLONASS)とブレード制御システムが、自動で仕事をしてくれる。ブレードが、ぐいっと土を押しこんでいく。その負荷までも機械自身が感知しながら、自動制御していく。運転席のモニターに目をやると、作業状況がリアルタイムで映し出されている。そのデータは現場から遠く離れたオフィスにいる人も、インターネットで確認することができる。現場の写真も、もう一度、見ていただきたい。整地面の美しさに、気づいてもらえるだろうか。センチメートル単位の精度で、仕上げてくれる。仕事が一変になったよ。そう語るオペレーターの声に、実感がこもっていた。

このブルドーザーがやって来て、現場は大きく変わった。作業工程も、作業時間も、関わる人の数も、現場の働き方にインベーションを起こしたと言っている。言い過ぎだろうか。普通の現場なら、まず測量から始める。二人の技術が測り、杭打ちを行う。その目印に合わせて、掘削や整地をしていく。しかし、このブルドーザーの場合、わずかな測量だけでいい。また世の中が忙しくなれば、現場の人手は不足する。熟練オペレーターの高齢化も心配される。そんな現場の課題も、自動で働く建設機械が増えれば、明るい方向に進んでいくにちがいない。オペレーターの腕に左右されることなく、短期間で、精度の高い仕事ができるのだ。

広大な現場で、一台のコマツが、黙々と土をならしていた。遠くから見ればごく普通の作業風景。しかしそこには、現場で働く人々と建設機械の新しい関係がはじまっていた。「想像以上だったよ」。現場監督が同じ言葉をつぶやいた。ICT建設機械への、何よりうれしい言葉だった。

人のための
道具だから。
社会のための
道具だから。

Global Teamwork
KOMATSU

コマツ
〒1107-8416 東京都港区赤坂2-3-6
FAX 03-3505-9662
<http://www.komatsu.co.jp/>